

## アンコールワット観光記

川島 順

予科21-7

航空7-1

(越谷市)



### 1. シェムリアップ国際空港

ハノイのAPAA理事会が終了した10月23日、ベトナム航空VN837で15:30 ハノイ空港を飛び立ち、ホーチンミン市近くまで南下してから西方に進路を変え、山脈を越えて、カンボジア国内に入った。予定通り 17:10 シェムリアップ空港に着陸した。あたりは薄暗くなっていた。飛行機を降りて目の前の空港事務所まで徒歩で向かう。入国カードを書かされたが、カンボジアはビザが必要でビザ番号を書かねばならない。慌てていたのでビザ番号を思い出せない。やむを得ず係官に申し出るとパスポートに書いてあるではないかと冷笑される。



Siem Reap国際空港

入国手続きを済ませ外に出ると、既にHISの現地のガイドが車を用意して待っ

ていてくれた。40分ほどでシェムリアップ市内のホテルメリディアンに到着。道路は舗装され、沿道の商店も意外に小綺麗で、道路にはハノイほどではないがバイクが主力、自動車、自転車の他、バイクで引っ張る観光者用の車トゥクトゥクが目立った。



シェムリアップの市内

ホテルはカンボジア様式のシックな低層の建物。しかし、ビジネスホテル形式のハノイのホテルとは対照的にあらゆるサービス用品が整っていた。国際空港事務所の屋根、ホテルの屋根、後述の学校の屋根、すべて茜色である。カンボジア人は茜色を好むらしい。



Meridien ホテル

### 2. アンコールワット観光

翌日から早速観光の旅である。今回訪れた遺跡は、アンコールワットとその週辺の遺跡アンコールトムとバンティアイスレイの3箇所である。そして、最終日には水上

生活者のいるトンレサップ湖を訪れた。

### (1) アンコールトム

最初に訪れたのはアンコールトムである。ホテルから車で40分ほど北に向かったところにある。アンコールトムは12世紀後半クメール王国のジャヤバルマン7世によって建設された城塞都市で、3km四方の正方形で8mの高さの城壁で囲まれている。城壁には南大門、北大門、西大門、死者の門、勝利の門の5つの城門がある。

アンコールトムの手前に検問所がある。そこで車を降りて、入門証のため顔写真を撮る。日本の運転免許証の写真と同じで、4~5分と意外に早く本人の顔写真入りの入門証を手にする事ができた。遺跡見物の間常にこの入門証を持っていないと、それぞれの遺跡に入れない。

城壁の周囲に巡らされた堀に架けられた石橋を渡って南大門から入る。この石橋にはヒンズー教の天地創造の神話、乳海攪乱に出てくる阿修羅が引っ張る蛇のナーガに模した欄干が両側に設けられている。



遺跡への入門証



アンコールトムの南大門



同行のA P A Aの先生方と共に

門を入り先ず目を引くのは城壁や遺跡を飲み込むように巨大な根っこで締め付けているガジュマルの大木。この木を取り除くと城壁は崩れてしまうそう。中央のバイヨンと呼ばれる寺院の周囲には沢山の佛塔がある。その中でも四つの顔を持つ観世音菩薩の四面塔が有名である。



観音菩薩の四面塔

回廊の壁画にはシャム軍との戦争や民衆の生活が克明に描かれている。

## (2) アンコールワット

24日の昼から再び車でアンコールワット見学のためにホテルを出た。ホテルのすぐ傍に大きな病院がある。病院の門前に小さな子供連れの母親が50~60人群がっている。ガイドの話ではカンボジアでは病院は無料なので遠くの田舎から来た貧しい人たちが病院の順番待ちのため病院前の芝生で夜を明かすことは当たり前とのこと。

門前市を通り抜け、石橋を渡ると大きな門が立ちはだかる。西大門といわれ、中央に王様の門、その左右に庶民の門、さらにその両側に象の通る門が開けられている。



アンコールワット全景

その門を潜ると三つの塔を備えた中央祠堂が聳え立ち、急峻な石段を備えている。昔の人はよくもこのような急な階段を使用したものだと感心するばかりであった。裏には緩い階段があったが、それでもかなり急なので登るのを諦めた。

アンコールワットは12世紀前半、スーリヤバルマン2世によってヒンズー教の寺院として建立された。その後プノンペンに都が移されるとアンコールワットは放棄されたが、16世紀にソター王が仏教寺院として改修した。



急峻な石段を備えた中央祠堂

構内の一隅にはカンボジア内戦の時ポルポト派によって首を撥ねられ敷石にされた多くの仏像が並べられていた。回廊には数多くの壁画が彫られている。テーマは戦争、恋物語等を絵巻風に描いている。



宮殿の回廊に描かれた壁画

特に有名なのは、インドの叙情詩「ラーマヤナ」、ラーマ王子と悪魔との戦いで、悪魔に攫われたシータ姫を王子が助け出すのが、王子に貞操を疑われ、姫は身の潔白を証すために火の中に身を投じるといふ悲恋物語。もう一つ目を引いたのは「天国と地獄」上中下3段に描かれ、上段は天国、中段は現世、下段は地獄を表し、地獄では、閻魔に舌を抜かれたり、火責め、針責め、鞭打ちと極めてリアルに描かれている。昔の寺院はこのように庶民に情操教育や道徳を教えるための教育機関としての機能を備えていたのではないかと思う。

アンコールワットの夕日を鑑賞するため

に城壁の絶景ポイントに移動した。その時警備のお巡りさん、胸に付けたPOLICEのバッチを示し乍ら、別の胸に付けた記念バッチらしき物を「30\$、30\$買わないか」としつっこく付いてくる。カンボジアのお巡りさんそんな事していいの。肝心な夕日は地平線に雲が漂い今一であった。

夕食は市内のレストランでショーを見ながら中華料理を頂く。ショーはカンボジアの王宮ダンスと民踊のようなダンス。王宮ダンスはタイやインドネシアの首振りダンスと同じもの。後者は丁度日本の盆踊りのような色彩と振り付けを備えたもので王宮ダンスとは対照的なものであった。



カンボジアの庶民的な踊り

### (3) バンティアイ・スレイ

25日の朝はアンコールワットの朝日を見ると云うことで朝5時に起こされて、アンコールワットの前庭の池に連れて行かれた。しかし、陣取った場所が悪く、太陽は塔の後ろに隠れ可成り高くなってから顔を出したので朝日の感激は今一少なかった。一旦ホテルに帰り朝食を取り、10時過ぎに次の目的地、バンティアイ・スレイに向かった。



バンティアイスレイの周壁の塔門

バンティアイ・スレイは967年ラージエンドラバルマン王とその息子の時代に作られたヒンズー教の寺院で、スレイとは女のことで「女の砦」と云われている。遺跡の規模は小さいが寺院は良質のラテライトと赤色の砂岩で作られ、前面は精巧で深く彫られた美しい彫刻で飾られている。



一番美しいとされる東洋のモナリザ像

祠堂の一角には数多くあるデバターの中で最も美しいとされる東洋のモナリザ（フランス人に盗まれたが最近帰ってきた）が安置されている。

出口に近い所で僧侶の楽団が地雷被害者の救済募金のための演奏を行っていた。



**地雷被害者救済の僧侶の音楽隊**

出口には日本の援助を感謝するユネスコの碑が建っていた。随所で日本の援助によって復旧しているとのガイドの説明を聞くのも日本人としては嬉しいものである。



**ユネスコの記念碑 右面に日本の援助が記載されている**

夕食は市内のレストランでカンボジア料理をいただく。前菜の後、小さな回転台の上に乗せられた5つに区切られたプレートにカレー、その周りにご飯、野菜の煮物、白身魚の揚げ物等が盛られている。味は、日本の味によく似ていて食べやすかったが、ご飯はまずかった。ベトナムでもご飯はまずかった。日本のお米に敵うものはない。



**カンボジア料理に前菜が付く**

#### (4) トンレサップ湖

昼過ぎホテルを車で出発、市内を出るとあたりは農村地帯、椰子の茂みの間に人家が点在する。高床式の椰子の葉葺きの質素な木造の家。ガイドの説明では高床は猛獣や毒蛇の難を避けたり、雨期の増水に備えるため、昼は涼しいので床下で食事をしたり、ハンモックで昼寝をするとのこと。幹線道路は殆ど舗装されているが、横道は舗装されない赤土の道が多い。今年は雨期が長く9月まで道路にあふれた水が引かず、今でも道路の舗装が大きくえぐられたところがあり、車の運転は注意を要する。



**高床式家屋**

約40分南下すると湖が見えてくる。やがて、大きな建物がある乗船場に到着。大小様々な観光船が係留されている。我々一行はガイドを入れて7人なので、20人乗り程の中型の船に乗る。

トンレサップ湖は、雨期には16,000平方km、深さ9m、琵琶湖の20倍以上。乾期でも2,700平方km、深さ1m、琵琶湖の4倍はある。この湖に住む水上生活者は1ブロックに1万人、100ブロックで

100 万人も住んでいる。税金はとられない。湖には世界最多といわれる程魚がいる。乾期に水の引けた湖底は稲作の田んぼになる。欲を出さなければ結構住み易い世界かもしれない。

最初は細長い河のような水路を行く。両岸には水中に建てられた高床式の木造家屋が続く。所々に船そのものを家屋にした家もある。

教会、学校、ガソリンスタンド等ここには何でもある。湖の真ん中に高い塔が建っていた、携帯電話の電波塔とのこと。

そこから開けて湖は海のように広くなる。船に乗っていた子供が肩を揉みにきた。断っても無理矢理揉みだすのでお礼に飴をあげようとしたら受け取らないでじっと見つめたまま。



トンレサップ湖の水上家屋



トンレサップ湖と観光船



水上にある学校

仕方がないので1ドルあげると黙って引き下がった。これが彼の唯一の仕事であろう。暫くして、大きな建物のある水上休憩場に着く。上がってみると土産物店や飲食店がある。たいした土産物もないのでワニを飼っている檻を眺めていた。午後3時過ぎにホテルに戻り、その夜の飛行機で、ホーチンミン空港経由で翌朝日本に帰ってきた。

いろいろ楽しい思い出もあったが忙しい旅であった。